

# トビックス

## 大型航空機着陸時の滑走路衝撃応答の測定

航空機の離着陸する滑走路の舗装の設計を行うときの着陸の際の衝撃については、規程がわが国だけでなく諸外国でもきめられてなく、経験にのみたよって実施されていた。このため航空機の着陸時の滑走路の受ける動的挙動を測定し、明らかにしようという試みが、昭和50年12月から51年2月にかけて、東京国際空港C滑走路で運輸省港湾技術研究所・滑走路研究室によって実施された。

同研究室では動的応答を調査するために、滑走路表面の縦断方向のひずみ、垂直および水平方向の衝撃応力、衝撃加速度、変位などを測定する計画を立てた。これらの測定項目を調べるために、ひずみ計（BS-8A）×6、垂直土圧計（BE-10KD）×3、水平土圧計（BE-8A）×2、加速度変換器（AS-5C）×1などを、C滑走路の南端から500mのところ（大型旅客機の着陸点）に埋設した。埋設は航空機の発着の終了した夜間に、滑走路の表面をカッティングして、アクリル樹脂で埋めもどした。

測定はジャンボジェット機をはじめとする大型航空機の着陸ごとに実施した。各検出器の出力を動ひずみ測定器（DPM-6E）×2で増幅し、データレコーダ（RTP-500A）×2で記録した。

実験データは現在整理が行なわれており、滑走路の舗装の設計に対する基礎的挙動の解明の一資料として役立てられる。

